



一人ひとりの
「やってみたい・知りたい・学びたい」
をつなげよう

みんなで楽しくつくる なんぼろの社会教育

第4期 南幌町 社会教育中期推進計画

2022~2026
南幌町教育委員会



目次

第1章 計画の基本的な観点

- 1. 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3. 計画策定の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 現状の把握
 - (2) 計画策定
- 4. 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 基本計画

- 1. 計画の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2. 策定の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3. 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4. 重点目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (1) 社会教育活動・関係施設の充実を図る
 - (2) 学びが共有できる場をつくる
 - (3) 未来へのつながりをつくる
- 5. キーワードと方向性・視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3章 推進項目と推進事業

- 1. 推進項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2. 推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- 推進計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 用語解説(本文中の※の付いている文言について、解説しています)・・・・・・ 17

第1章 計画の基本的な観点

第1章 計画の基本的な観点

1. 計画策定の趣旨

南幌町の社会教育^{*1}は、平成17年度に「私らしい暮らしをめざして～夢とちからを育む心豊かな地域づくり～」の理念のもとに「第1期南幌町社会教育中期推進計画」を策定し各施策に取り組んでまいりました。

7年間の推進期間を経て、平成24年度に現計画の基本となる、「ともに学び、ともに考え、ともに実践する地域社会を目指して～未来につながるレインボープラン～」の理念のもとに「第2期南幌町社会教育中期推進計画」（以下、第2期計画）を策定し、4つの重点目標と7つのキャッチフレーズ・キーワード、視点・方向性を示し推進事業を展開してきました。

「第3期南幌町社会教育中期推進計画」（以下、第3期計画）は、視点・方向性の評価や時代の潮流を踏まえ、住み慣れた地域で健康で安心して生きがいをもって、暮らせる環境をつくるため、基本理念や重点目標などを第2期計画から継承し、社会教育事業を推進してきました。

今後、全国的に社会問題となっている人口減少や少子化、新型コロナウイルス感染症対策として「新しい生活様式」^{*2}を取り入れたライフスタイルの変容、SDGs^{*3}の教育の取組など、個人の価値観の多様性と急速に進展する情報化社会により、社会教育の進め方も大きく変わることが予想されます。

これまでの南幌町の社会教育活動は、南幌町社会教育審議会^{*4}（以下、審議会）における、第3期計画の策定過程や評価などの検証活動を通して、活発に行われていることが再認識されていますが、さらに充実したものにするには広く町内外に発信をすることが必要であると考えます。

また、生活をより豊かにし、幸福感を得るためには、一人ひとりの学びの場を充実させるとともに、少人数であっても居心地のいい学びの場と人と人との結びつきが強い仲間が必要であると考えます。音楽やスポーツ、趣味、ボランティアなどの小集団での学び合いが、少しずつ仲間を増やし、その仲間の輪に気軽に参加できる環境が必要であることから、「一人ひとりの『やってみたい・知りたい・学びたい』をつなげよう ～みんなで楽しくつくる なんぼろの社会教育～」を新たな理念とした、「第4期南幌町社会教育中期推進計画」（以下、第4期計画）を策定しました。

2. 計画の位置づけ

南幌町では、目指すまちの将来像を「緑豊かな田園文化のまち」と定め、まちづくりの基本理念を「誰もが笑顔で活躍できるまちづくり」と掲げ、いきいきとした笑顔があふれ、誰もが行ってみたい、住んでみたい、住み続けたいと思えるような魅力あるまちづくりを推進していくため、「第6期南幌町総合計画」（以下、第6期総合計画）を策定しています。



第4期計画は、これまでの方針を踏襲し、現行計画である第6期総合計画における基本政策を踏まえた計画とします。

また、「南幌町教育大綱^{*5}」の基本方針、主要施策、さらに、「南幌町生涯学習推進基本構想^{*6}」の推進項目も踏まえた計画とします。

3. 計画策定の方法

(1) 現状の把握

- ①第3期計画の施策評価（審議会）
- ②町民へのアンケート調査や聞き取り調査（審議会）

(2) 計画策定

- ①南幌町社会教育審議会における協議
 - ・現状把握から得た町民ニーズ・課題の分析
 - ・新たな理念・重点目標の検討
 - ・新たな方向性、視点の検討
 - ・具体的な推進施策の検討

4. 計画期間

令和4年度から令和8年度までの5年間

第2章 基本計画

第2章 基本計画

1. 計画の構成

第4期計画は、「基本理念」「重点目標」「キーワード（キャッチフレーズ）」「方向性」「視点」「推進項目」「推進事業」の7つの項目により構成しています。

「キーワード」については、審議会の意見を踏まえ、見直しています。

「重点目標」と「キーワード」「方向性」「視点」とは並列するのではなく、多岐にわたってつながり、更に推進項目と推進事業ともつながる構成としています。

2. 策定の手法

計画の策定にあたっては、基本となる町民の意見・要望を反映させるべく、聞き取り調査とアンケート調査を実施しました。

聞き取った項目をもとに審議会で議論を重ね、新たな基本理念や重点目標、方向性、視点と推進項目、推進事業に反映しています。

3. 基本理念

基本理念については、生活をより豊かに、幸福感を得るためには、一人ひとりの学びの場を充実させるとともに、少人数であっても居心地のいい学びの場と人と人との結びつきが強い仲間が必要であると考え、「一人ひとりの『やってみたい・知りたい・学びたい』をつなげよう ～みんなで楽しくつくる なんぼろの社会教育～」とします。

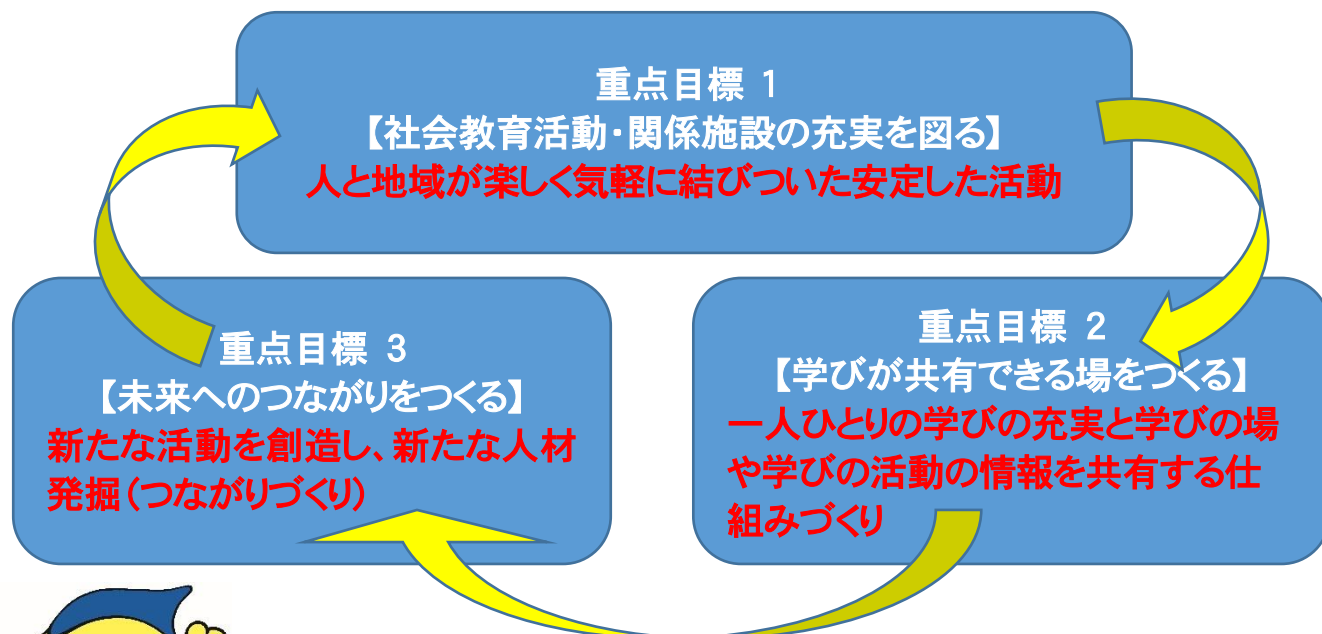
4. 重点目標

前計画の聞き取り調査の基礎資料から現状把握と課題・問題点の整理を行い、審議会での議論を進める中で、

- ・社会教育活動・関係施設の充実を図る
- ・学びが共有できる場をつくる
- ・未来へのつながりをつくる

といった3つの重点目標を基本理念の達成に向けた指標と位置づけ、これらが、円滑に循環する「社会教育モデル」*7となることを目指します。

《循環する社会教育モデル》



また、重点目標は、「キーワード」「方向性」「視点」「推進項目」の基本となる目標であり、基本理念の達成に向けた指標として位置づけています。

重点目標 1 社会教育活動・関係施設の充実を図る

生きがいのある豊かな人生を送るためには、人との出会いや語り合う場をつくり、自分を高め、相互に培っていくことのできる社会教育活動が必要です。

そのためには、仲間が気軽に楽しく集い、相互に絆を深めていく活動が大切であることから、第3期計画からの推進事業を継続的に進め、社会教育施設^{※8}や地域人材等の教育資源を活用し、文化・スポーツなどに親しむ社会教育事業を充実する必要があります。

また、新しい生活様式を取り入れた推進事業を進めるとともに、自宅で過ごす時間が増えたことによって生じる運動不足の解消や体力向上の場、創作した作品の発表の機会を提供するなど、文化、スポーツともに幅広い世代の方が活動し、施設を利用できるように取り組みます。



重点目標 2 学びが共有できる場をつくる

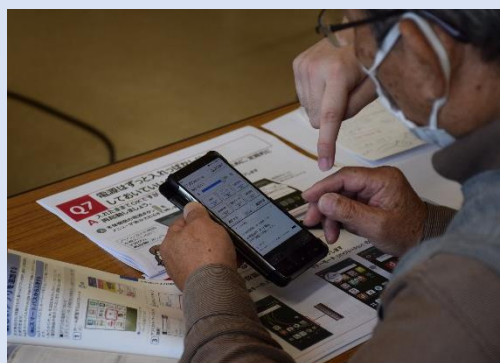
南幌町の社会教育活動は、子育てに対する学びの場や幼児・児童・生徒の学びの場、青少年のスポーツ活動、サークル活動や生涯学習講座、健康づくり活動など、幅広い世代に対する活動が充実しています。

生活をより豊かに、幸福感を得るためには、一人ひとりの学びの場を充実させるとともに、少人数であっても目標や目的が共通し、気軽に学び合える仲間がいることが必要です。

また、外出自粛や人との交流が減少した状況を踏まえ、新しい生活様式を取り入れながら、対面での活動を大切にし、孤立させない活動に取り組むことが大切です。

さらに誰もが自分にあった情報を、いつでも、どこでも得ることができるよう、インターネット等を活用した情報共有も大切です。

そのためには、学びの場や講座の情報、文化・スポーツ活動、サークル活動の情報を容易に得られる環境づくりに努めます。



重点目標 3 未来へのつながりをつくる

これからの人づくりやまちづくりを推進するためには、南幌町の課題や特色を活かした社会教育活動に取り組む必要があります。

特に未来を担う子どもたちが地域でいきいきと学び、育つためには多様な学習の場や指導者の確保など、学校教育と社会教育の連携が益々重要となります。

そのためには、町内の商工業者と中・高・大学生との交流や食育を通じた農業者と町民の交流、高齢者が青少年と学びを共有し、生きがいをつくるための交流など、特色ある学びの環境づくりに努めます。

また、保護者や学校教育関係者、社会教育関係者が話し合いの場を持ち、役割と責任を分担し共通の課題や目標を見つけ、協力しながら課題解決や目標を達成する仕組みづくりに努めます。



5. キーワードと方向性・視点

○キーワード・方向性・視点の役割やイメージ

審議会で協議してきた中での、問題点や課題を解決するための方向性を示したのが「方向性」と「視点」です。

「方向性」「視点」は「基本理念・重点目標」と「推進項目・推進事業」をつなぐもので、それぞれの推進項目が、目標に沿って進んでいるかを確認する役割も果たしています。



「方向性」と「視点」は領域や発達段階に分類せず、それぞれの推進項目と多岐にわたり結びつく指針となるものです。

また、「方向性」「視点」がイメージしやすいように、「キーワード」と「キャッチフレーズ」で表しています。

Key Word 1 家庭教育

キャッチ
フレーズ

子育ての課題を共有し、みんなで悩み、
学び支え合おう!

【現状と課題】

- ・共働きやひとり親家庭など家庭環境が多様化し、子育てが忙しく、情報収集や学習の機会、子育ての悩みを共有する機会が少なくなっています
- ・家庭環境が多様化し、一般論や経験論だけでは、解決できないことが多くなっています

【方向性】

子育ての課題を共有し、地域全体で子どもを育てるための新しいアイデアを発想し支えることができる環境を目指します。

【視点】

- ・情報収集する機会と参加しやすい環境をつくります
- ・いつでもみんなで学べ、つながりが生まれる仕組みづくりに努めます



Key Word 2 学校教育と社会教育の融合^{※9}

キャッチ
フレーズ 時代を担う子どもたちが育つ、新しい学校づくり
に向けて、地域と学校が一緒に考えよう！

【現状と課題】

- ・学校と家庭、地域が一体となった教育活動を目指していくことが求められています
- ・保護者や地域からは、子どもたちの社会教育活動に対する学校の協力や連携が求められています
- ・コミュニティスクール^{※10}などを中心に、学校教育と社会教育が抱える課題や役割を明らかにし課題解決のための情報共有や互いのニーズを把握し、地域住民も含めた連携・協働できる環境づくりが求められています

【方向性】

学校教育と社会教育の要素を部分的に重ね合わせながら、一体となって子どもたちの教育に取り組んでいくことで、子どもたちの学ぶ意欲を向上させ、子ども自らが学ぶ環境や町民と子どもたちが相互に学力や生きる力の向上を目指します。

【視点】

- ・学校教育と社会教育が連携し、互いの課題や役割を認識し、情報共有を図りながら、多様な学習を子どもたちに提供できる環境づくりに努めます

Key Word 3 発想の転換^{※11}

キャッチ
フレーズ 事業やサークル活動をきっかけに、一人ひとりの
生きがいと世代を問わない仲間を創ろう！

【現状と課題】

- ・生きがいやつながりを求め、社会教育の学びの場に参加し、いつでも情報が収集できる環境が少ない
- ・住み慣れたまちで、健康で安心して、生きがいをもって暮らすために、町民自らが様々な活動に参加できる環境づくりが必要です

【方向性】

事業の面白さや興味が持てるような内容を参加者が、感想や意見を発信し、共有することで、新たな事業が生まれ、多様性に富んだ社会教育の充実を目指します。

【視点】

- ・生きがいづくりやつながりをつくるための学びのニーズを収集・分析し、事業の企画・内容に反映した仕組みづくりに努めます
- ・今後の事業の在り方を参加者と一緒に検証し、町民誰もが参加しやすく、協力できる仕組みづくりに努めます

Key Word 4 体験・経験の充実

キャッチフレーズ 余計なこと、無駄なこと、無意味とを感じる活動も
学びにつなげ、まちづくりに生かそう！

【現状と課題】

- ・若者たちは豊かな心と健やかな体の育成を求め、また、高齢者は、生きがいやつながりを求めて新たな趣味や学びの機会を見つけるなど、それぞれのニーズが多様化・高度化してきています
- ・仲間と一緒に楽しむことで、個人のコミュニケーション能力が向上し、支え合いの精神が育成されています

【方向性】

少人数の集まりや仲間をつくることで、より深く学ぶことができ、民間が実施している事業とも連携し、幅広い活動に発展させ、多様化したニーズに応じた学びを提供することを目指します。

【視点】

- ・少人数での活動でも町民自ら情報共有するための情報を発信できる仕組みを整えます
- ・町民が気軽に学ぶことができる環境づくりに努めます
- ・多世代と一緒に体験・経験しやすい環境を整えます

Key Word 5 つながり

キャッチフレーズ いつでも、どこでも、だれとでも。
お互いの情報を共有しよう！

【現状と課題】

- ・これまでは、子ども会や青年団など地縁組織といった地域団体によって事業が展開され、地域課題を解決するなどの役割を果たしていたが、個々の価値観やライフスタイルの変容等によって、地域におけるつながりや連帯感などが変化し、組織で活動する機会が減っています
- ・個々の活動におけるつながりは、内容が充実し生きがいとなっている反面、つながりを求めるノウハウや手段が少なく、新たなつながりが生まれにくくなっています
- ・活動や事業を広く情報発信する媒体が少なく、町民自らが学びの機会の情報を収集できる環境が乏しくなっています

【方向性】

互いの活動が情報発信され、情報交換が活発になることで、個人や組織を問わず新たな活動のつながりをつくれます。

個人や組織を問わず、様々な活動の情報を共有し、発信することで新たなつながりの仕組みをつくれます。

【視点】

- ・様々な世代の町民が多様なジャンルの事業や活動を情報共有できる環境づくりに努めます

Key Word 6 担い手づくり

キャッチ
フレーズ 形式にこだわらず、楽しく一緒に学び合うことで、
新たな担い手をつくろう！

【現状と課題】

- ・社会教育関係団体の多くは、少子高齢化により、会員の減少や役員のなり手がなく、後継者が不足し、組織の維持が大変困難な状況にあります
- ・活動自体を負担に感じたまま参加することで、新しいアイデアが生まれにくく、活動の活性化につながらなくなっています
- ・団体活動や人材の情報が共有されていないため、新たな人材の発掘や育成が進んでいない状況にあります

【方向性】

町民のあらゆる活動の情報を共有することで、学校や地域の求めに応じた知恵や経験、技術を持った社会教育の担い手を発掘・育成することができ、世代交代にとらわれない、長く続く社会教育活動を目指します。

【視点】

- ・学校や地域が求める人材を発掘し、担い手の育成に努めます
- ・様々な活動や事業の参加者が、相互に交流する機会をつくり、会員の減少や後継者不足の課題を解決できるよう努めます



第3章 推進項目と推進事業

第3章 推進項目と推進事業

1. 推進項目

推進項目は、社会教育が進めている施策の根幹となるもので、社会教育の推進する施策をより明確にし、「基本理念」「重点目標」「方向性」「視点」への評価につなげるため、「第4期計画」において、推進項目を計画に位置づけます。

2. 推進事業

推進事業は、推進項目に沿って実施する具体的な施策で、「基本理念」「重点目標」「方向性」「視点」を達成するための手段として、主なものを示しています。

審議会での評価等を踏まえ、必要に応じて、新たな事業の取り組みや見直しなどを行っていきます。

推進項目 家庭教育の支援

【主な推進事業】

- 子育て支援事業
 - ・子育て支援交流事業（すくすく広場等）
 - ・ブックスタート^{*12}事業
 - ・子育て支援ネットワーク会議
- 家庭教育支援事業
 - ・親学講座^{*13}（幼稚園、小学校、中学校）



推進項目 青少年健全育成の推進

【主な推進事業】

- 青少年健全育成事業
 - ・放課後子どもプラン推進事業（あそびの達人教室等）
 - ・青少年健全育成協議会（健全育成を考える集い等）
 - ・子ども会育成連絡協議会支援事業（たくみ祭、自然体験等）
 - ・子ども未来応援事業^{*14}（チャレンジ・キャンプ（生活体験・防災教育）プロフェッショナル講演等）
 - ・子ども文化・スポーツ全道大会等補助金



推進項目 社会教育活動の推進

【主な推進事業】

- 成人教育推進事業
 - ・ふるさと南幌みらい塾運営事業（生涯学習講座）
 - ・さわやかカレッジ運営事業（高齢者大学）
- 地域活動活性化事業
 - ・地域ボランティア推進事業（生涯学習サポーター制度等）
 - ・社会教育関係団体支援事業（PTA・青年団体協議会等）

推進項目 スポーツ・レクリエーション活動の推進

【主な推進事業】

- スポーツコミュニティー推進事業
 - ・各種スポーツ大会（ミニバレーボール大会等）
 - ・ファミリースポーツ事業
 - ・社会体育関係団体支援事業（スポーツ協会・スポーツ少年団本部）
- 健康づくり・体力向上推進事業
 - ・スポーツ教室（新体力テスト会、フィットネス教室、スイミングスクール、アクアエクササイズ等）
 - ・運動不足解消（冬のウォーキング教室、ココトレ^{※15}等）
- 子ども体力向上推進事業
 - ・スポーツ教室（スキー教室、水泳教室、スイミングスクール、ジュニア教室等）
 - ・部活動等の外部指導者の発掘^{※16}
 - ・子ども室内遊戯施設と連携した体力向上事業



推進項目 芸術・文化活動の推進

【主な推進事業】

- 芸術文化推進事業
 - ・芸術鑑賞事業（幼児・児童・生徒・一般）
 - ・美術鑑賞事業（絵画・書道・写真等の展示）
 - ・文化事業（書初め大会、音楽等発表会）
 - ・文化団体の支援（文化協会等）

推進項目 ふるさとの記憶の保全

【主な推進事業】

- ふるさとの記憶保全事業
 - ・町の歴史や生活文化の資料、生活用具等の収集・保管・展示（特別展の実施）
 - ・史跡標柱を活用した観光周遊^{*17}事業
 - ・郷土芸能の伝承（南幌音頭、南幌太鼓、なんぼろ俵つみ唄）

推進項目 読書活動の推進

【主な推進事業】

- 読書活動推進事業
 - ・生涯学習センター図書室の充実（蔵書の充実、夜間開館等）
 - ・読み聞かせ事業（図書室、保育園、幼稚園、小学校等）
 - ・図書室の蔵書の配本（学校、公共施設等）
- 子どもの読書活動推進事業
 - ・ブックスタート、ブックスタートプラス^{*18}事業
 - ・家読、朝読^{*19}の奨励
 - ・読書通帳の発行等
 - ・子どもの読解力向上の推進（小中学校図書室の利用促進、読書感想文コンクール、北海道青少年のための200冊の配架等）

推進項目 生涯学習の推進

【主な推進事業】

- 生涯学習推進事業
 - ・生涯学習推進基本構想の推進
 - ・生涯学習推進本部^{*20}主導による庁内連携事業の推進
 - ・社会教育活動の情報発信方法の検討

推進項目 社会教育関係施設の充実

【主な推進事業】

- 生涯学習センターの充実
- スポーツセンター・町民プールの充実
- 社会教育関係施設の充実
 - ・農村環境改善センター
 - ・町営野球場
 - ・三重レークハウス
 - ・保健福祉総合センター陶芸室

推進計画の体系

第4期 南幌町社会教育中期推進計画体系

基本理念	重点目標	キーワードとキャッチフレーズ	方向性	推進項目	主な推進事業
一人ひとりの『やってみたくい・知りた・学びたい』をみんなできたくい・つくる	<p>1 社会教育活動・関係施設の充実を図る</p> <p>2 学びが共有できる場をつくる</p> <p>3 未来へのつながりをつくる</p>	<p>(1) 家庭教育 子育ての課題を共有し、みんなので悩み、学び支え合おう！</p> <p>(2) 学校教育と社会教育の融合 時代を担う子どもたちが育つ、新しい学校づくりに向けて、地域と学校が一層に考えよう！</p> <p>(3) 発想の転換 事業やサークル活動をきっかけに、一人ひとりの生きがいと世代を問わない仲間を創ろう！</p> <p>(4) 体験・経験の充実 余計なこと、無駄なこと、無意味と感ずる活動も学びにつなげ、まちづくりに生かそう！</p> <p>(5) つながり いつでも、どこでも、だれとでも。お互いの情報を共有しよう！</p> <p>(6) 担い手づくり 形式にこだわらず、楽しく一緒に学び合うことで、新たな担い手をつくろう！</p>	<p>子育ての課題を共有し、地域全体で子どもを育てるための新しいアイデアを発想し支えることができる環境を目指します。</p> <p>学校教育と社会教育の要素を部分的に重ね合わせながら、一体となって子どもたちの教育に取り組んでいくことで、子どもたちの学び意欲を向上させ、子どもたちが学ぶ環境や町民と子どもたちが相互に学力や生きる力の向上を目指します。</p> <p>事業の面白さや興味が持てるような内容を参加者が、感銘や意欲を発信し、共有することで、新たな事業が生まれ、多様性に富んだ社会教育の充実を目指します。</p> <p>少人数の集まりや仲間をつくることで、より深く学ぶことができ、民間が実施している事業とも連携し、幅広い活動に発展させ、多様化したニーズに即した学びを提供することを目指します。</p> <p>互いの活動が情報発信され、情報交換が活発になることで、個人や組織を問わず新たな活動のつながりをつくります。</p> <p>個人や組織を問わず、様々な活動の情報を共有し、発信することで新たなつながりの仕組みをつくります。</p> <p>町民のあらゆる活動の情報を共有することで、学校や地域の求めに即した知恵や経験、技術を持った社会教育の担い手を発掘・育成することができ、世代交代にとらわれない、長く続く社会教育活動を目指します。</p>	<p>①家庭教育の支援</p> <p>②青少年健全育成の推進</p> <p>③社会教育活動の推進</p> <p>④スポーツ・レクリエーション活動の推進</p> <p>⑤芸術・文化活動の推進</p> <p>⑥ふるさととの記憶の保全</p> <p>⑦読書活動の推進</p> <p>⑧生涯学習の推進</p> <p>⑨社会教育関係施設の充実</p>	<p>○子育て支援事業 ・すくすく広場 ・ブックスタート ・子育て支援ネットワーク会議 ・親学講座</p> <p>○家庭教育支援事業 ・あそびの達人教室</p> <p>○青少年健全育成事業 ・青少年健全育成協議会 ・子ども育成連絡協議会の支援 ・子ども未来応援事業（チャレンジ・キャンプ）（生活体験・防災教育）等） ・子ども文化・スポーツ全通大会等補助金 ・ふるさと南幌みらい塾、さわやかカレッジ ・地域ボランティア推進事業</p> <p>○スポーツコミュニケーション推進事業 ・ミニハレホール大会等各種スポーツ大会 ・ファミリースポーツ事業 ・社会体育関係団体の支援 ・フィットネス等各種スポーツ教室 ・運動不足解消教室 ・水泳教室等各種スポーツ教室 ・スポーツ少年団の支援 ・部活動等の外部指導者の発掘 ・芸術鑑賞、美術鑑賞、発表会等 ・文化団体の支援 ・町の歴史や生活文化の資料等の収集・保管・展示 ・郷土芸能の伝承 ・史跡標柱を活用した観光周遊事業</p> <p>○読書活動推進事業 ・図書室の充実（蔵書、夜間開館等） ・読み聞かせ（学校等） ・ブックスタート、ブックスタートプラス ・家読、朝読の奨励 ・子どもの読解力向上の推進</p> <p>○生涯学習推進事業 ・生涯学習推進基本構想の推進 ・生涯学習推進本部による庁内連携事業の推進 ・社会教育活動の情報発信方法の検討</p> <p>○生涯学習センターの充実 ○スポーツセンター・町民プールの充実 ○社会教育関係施設の充実 ・農村環境改善センター、町営野球場等</p>

用語解説

用語解説

1. 社会教育

学校の教育課程として行われている教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む）を言う。（社会教育法抜粋）

2. 新しい生活様式

新型コロナウイルス感染症を想定し、感染拡大から守るため日常生活において、個人の生活に合った感染防止対策を実践する生活様式。人との距離を保つ、マスクの着用、手洗いが3つの基本。

3. SDGs

持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）は、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。

4. 南幌町社会教育審議会

12名の委員で構成され、社会教育に関する諸計画の立案、教育委員会の諮問に応じて必要な研究調査を行うなどの役割を担う。社会教育中期推進計画においては、教育委員会より諮問を受け、聞き取り調査や生涯学習アンケートなどの研究調査を経て答申を行っている。

5. 南幌町教育大綱

南幌町の教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるもの。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、総合教育会議において、首長と教育委員会が協議・調整を図り、首長が教育大綱を定める。

6. 南幌町生涯学習推進基本構想

平成28年2月に町長を本部長として設置された南幌町生涯学習推進本部において、行政間の生涯学習における情報共有や連携・協力をより一層推進し、南幌町らしい生涯学習の推進に向けた基本的な考え方を示めたもの。

7. 社会教育モデル

社会教育の型や模範。

8. 社会教育施設

家庭や学校以外で児童から青年、成人、高齢者に至るまで、全ての年齢の人たちに、学習や研修、スポーツや趣味に興じたり、楽しむ機会を提供することができる生涯学習のための施設のこと。

9. 学校教育と社会教育の融合

学校教育と社会教育がそれぞれの役割分担を前提とした上で、そこから一步進んで、学習の場や活動など両者の要素を部分的に重ね合わせながら一体となって子どもたちの教育に取り組んでいこうという考え方。

10. コミュニティスクール

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みであり、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。

11. 発想の転換

考えやものの見方の角度を変えること、別の観点から見ること、あるいは新しい見方をすることなどを意味する表現。

12. ブックスタート

乳幼児健診などの機会に図書館司書が赤ちゃんと絵本を開くことの大切さや楽しさを保護者に伝えながら「絵本」や「読み聞かせのアドバイス集」が入ったブックスタート・パックを無料で手渡しする事業。本町では7ヶ月健診の際に実施している。

13. 親学講座

多くの親が集まる場を活用して、家庭の教育力向上を目的とし、家庭教育に関する知識の習得や課題の共有、情報を提供する講座。

14. 子ども未来応援事業

子どもたちが将来の夢や目標を持って、自立した社会生活を送ることができるよう、学校や関係団体と連携し、多様な学習活動に取り組む事業。

15. ココトレ

冬期間、トレーニングルームで行う事業で、短期間に少人数で、個人に合わせた運動指導を行い、ランニングや筋力トレーニングを取り入れることで、高いトレーニング効果が期待できる。

16. 部活動等の外部指導者の発掘

児童生徒に対して、より高い技術的指導を受けさせることにより、スポーツに親しみ、体力の向上を図るとともに、教員の負担を減らし、多くの児童生徒と向き合う時間を確保する観点から、中学校運動部、小学校高学年体育授業を中心とした地域のスポーツ人材の活用を一層促進するため、学校における地域のスポーツ人材を活用するため人材を発掘すること。

17. 観光周遊策

南幌町の史跡標柱見学を目的に、町内を移動しながら飲食店や宿泊の利用を促進する観光対策の一つである。

18. ブックスタートプラス

ブックスタートで芽生えた読書のきっかけづくりを更に広める事業。保護者らの読み聞かせから子ども自身が読書に親しむためのきっかけづくりとして、図書をプレゼントする事業。

19. 家読・朝読

家族全員で読書し、感想を話し合うことで「家族のコミュニケーション」を深めることを目的にした読書運動及び、小・中学校などにおいて、始業時間前に10分程度の読書の時間を設け、読書を習慣づける活動。

20. 生涯学習推進本部

学校を核とした地域づくりを進めるため設置し、地域と学校が連携・協働し町民や関係団体の参画による学習活動の推進するため町の理事者と課長職を構成員として設置する。

資料編

南 教 生 社 号
令和2年8月18日

南幌町社会教育審議会委員長
川 上 裕 一 様

南幌町教育委員会教育長
小笠原 正 和

(案) 第4期南幌町社会教育中期推進計画の策定について (諮問)

地域社会の課題に対応した学習機会、学習情報の提供や学習成果の活用等の充実を図るとともに、町民の多様な学習ニーズに対応するため、本町の社会教育の指針となる「第4期南幌町社会教育中期推進計画」の策定について諮問します。

記

1 策定内容

第4期南幌町社会教育中期推進計画 (令和4年度～令和8年度)

2 答申期限

令和3年11月

(生涯学習課社会教育グループ)

諮 問 の 趣 旨

現在、南幌町教育委員会では「第6期南幌町総合計画」（平成29年度～令和8年度）のまちづくりの基本政策の一つである「地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり」を踏まえて、第3期社会教育中期推進計画（平成29年度～令和3年度）を策定し社会教育の推進に努めていますが、この計画期間が来年度をもって終了します。

この間、少子高齢化による人口減少の一方、首都圏への一極集中の進行や情報通信技術の発達による社会インフラの高度化、人々の働き方やライフスタイルの多様化に加えて、毎年のように繰り返される大規模な自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大などによる社会情勢の大きな変化に伴い、我々の生活環境や生活意識にも大きな影響を与えています。

このような中、本町においては、町民の学びや文化の拠点である「南幌町生涯学習センターぽろろ」やスポーツ活動の拠点である「南幌町スポーツセンター」を中心に、町民の自主的な学習活動への支援と社会教育環境の整備に取り組んできましたが、今後も町民が生きがいを持って健康で充実した生活を送り、生涯にわたって学習活動を続け、その成果を生かすことができるために、時代の変化を的確に捉えて、地域と学校、行政がより連携することで、南幌らしい社会教育活動をいっそう充実させることが求められているところです。

これらを踏まえて、広範な意見のもとに、町民の学習活動に対する多様なニーズに対応した本町の社会教育の指針となる「第4期南幌町社会教育中期推進計画」の策定についてご審議を賜りたく、貴審議会に諮問するものです。

令和3年12月17日

南幌町教育委員会

教育長 小笠原 正 和 様

南幌町社会教育審議会

委員長 川 上 裕 一

第4期南幌町社会教育中期推進計画（案）の答申について

令和2年8月18日付けで、南幌町教育委員会より、地域社会の課題に対応した学習機会、学習情報の提供や学習成果の活用等の充実を図るとともに、町民の多様な学習ニーズに対応するため、本町の社会教育の指針となる「第4期南幌町社会教育中期推進計画」の策定について諮問を受けました。

当審議会では、アンケート調査を中心に町民の皆様の声をいただき、コロナ禍における本町社会教育の現状と課題を踏まえ、慎重に審議した結果、新たな基本理念を「一人ひとりの『やってみたい・知りたい・学びたい』をつなげよう ～みんなで楽しくつくる なんぼろの社会教育～」と掲げ、また、新たな重点目標も設定し、人口減少や少子高齢化、子ども達を巡る諸問題など、多くの課題を抱える地域社会の中にあっても、住み慣れた地域で、健康で安心して、生きがいをもって暮らすことのできる環境をつくり出すことを指針とした第4期南幌町社会教育中期推進計画(案)を答申いたします。

また、全国的な子ども達の活字離れや読書に親しむ機会が減少傾向にあることに鑑み、本町の子ども達の読書活動の向上を基本とした、南幌町子どもの読書活動推進計画(案)についても合せて答申いたします。

今後、社会教育を推進するにあたり、本答申の趣旨が十分反映され、まちづくりに寄与することをご期待申し上げます。

第4期南幌町社会教育中期推進計画策定経過

期 日	内 容	備 考
平成30年度	第4期南幌町社会教育中期推進計画に基づいた施策評価	
令和元年度	社会教育と自身との関わりについて、全委員による活動報告と出席者による意見交換	
令和2年 8月 5日	◆委員長との打ち合わせ ・第4期社会教育中期推進計画の策定に向けて	
8月18日	◇第8回定例教育委員会 ・第4期社会教育中期推進計画策定の諮問について(承認)	
8月28日	◆第2回社会教育審議会 ○第4期社会教育中期推進計画策定の諮問 ○第4期社会教育中期推進計画の策定に向けて 策定方法、策定スケジュールの確認	
11月19日	◆教育委員・社会教育関係委員合同会議 ○「これからの社会教育に必要なこと」について、3グループに分かれて、グループワークを実施	
令和3年 3月24日	◆第3回社会教育審議会 ○本年度策定作業の経過報告 ○今後の策定スケジュールについて	
7月13日	◆第1回社会教育審議会 ○第4期南幌町社会教育中期推進計画の策定スケジュール等についての協議 ○第4期南幌町社会教育中期推進計画重点目標に係る情報共有についての意見交換	
8月4日	◆第2回社会教育審議会 ○第4期南幌町社会教育中期推進計画の考え方についての協議 ○聞き取り調査(アンケート調査)の様式についての協議	
8月~9月上旬	◆町民聞き取り調査(アンケート調査)の実施 【回答数】 ・聞き取り調査: 23名 ・アンケート調査: 46名	
10月15日	◆教育委員・社会教育関係委員合同会議 ○「コロナ禍における高齢者の社会教育活動について」について、3グループに分かれて、グループワークを実施	

<p>1 1 月 9 日</p>	<p>◆第 3 回社会教育審議会</p> <p>○第 4 期南幌町社会教育中期推進計画策定に係る社会教育事業の実施状況についての協議</p> <p>※直近 3 カ年の事業参加者数の報告と実施内容</p> <p>○第 4 期南幌町社会教育中期推進計画の協議</p> <p>※計画本文の文言修正作業</p>	
<p>1 2 月 3 日</p>	<p>◆第 4 回社会教育審議会</p> <p>○第 4 期南幌町社会教育中期推進計画（案）の協議</p> <p>○第 2 期子どもの読書活動推進計画（案）の協議</p> <p>※計画案（答申）の決定</p>	
<p>1 2 月 1 7 日</p>	<p>◆第 1 2 回定例教育委員会</p> <p>○第 4 期南幌町社会教育中期推進計画（案）の答申</p> <p>○第 2 期子どもの読書活動推進計画（案）の答申</p>	

南幌町社会教育審議会委員名簿（敬称略）

●社会教育審議会委員

	氏 名	備 考
委員長	川 上 裕 一	社会教育関係者（文化団体）
副委員長	小野島 直 彦	社会教育関係者（スポーツ少年団）
副委員長	松 島 摩 美	社会教育関係者（家庭教育・学識経験者）
委 員	野 村 智 久	学校教育関係者（校長会）
委 員	岩 井 恒 信	社会教育関係者（子ども会）
委 員	舟 見 侑 穂	学校教育関係者（学識経験者）
委 員	角 尚 史	社会教育関係者（スポーツ団体）
委 員	小 原 康 子	社会教育関係者（スポーツ団体）
委 員	岩 田 昌 也	社会教育関係者（スポーツ少年団）
委 員	永 岡 真佐子	社会教育関係者（文化団体）
委 員	阿 部 真 弓	社会教育関係者（文化団体）
委 員	鈴 木 弘 和	社会教育関係者（文化団体）

南幌町教育委員会生涯学習課（社会教育グループ）

職 名	氏 名
生涯学習課長	浅 野 茂
社会教育グループ主幹	時 田 厚
社会教育グループ主査	松 岡 裕 也
社会教育グループ主任	須 藤 秀 康
社会教育グループ主事	軽 部 利 紀

令和4年3月
発行 南幌町教育委員会

〒069-0237

空知郡南幌町栄町3丁目3番1号

TEL:011-378-6620 FAX:011-378-6630

編集 生涯学習課社会教育グループ